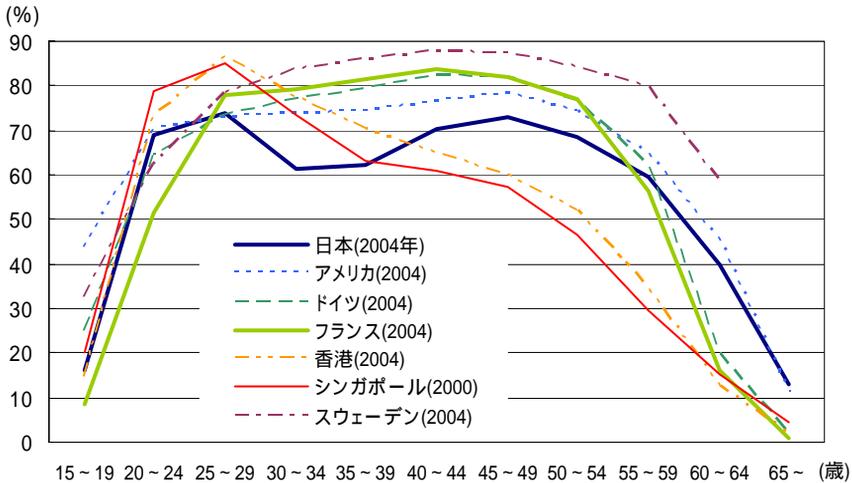


2-5 女性年齢階級別労働力率



▶ グラフの具体的な数値および資料出所については「第2-10表 性・年齢階級別人口、労働力人口、労働力率」(p.68)を参照。

女性の年齢階級別労働力率をみると、日本では20歳代後半から30歳代にかけて比率が落ち込むいわゆるM字カーブを描いていることが特徴である。結婚・出産・育児等のために労働市場からいったん退出し、その後育児に手間がかからなくなり再び労働市場に復帰するという、女性労働者の就労行動の特徴がM字カーブにより明らかである。これはアメリカやヨーロッパでも1970年代には見られた現象だが、今日ではほとんど見られなくなり、台形型となっている。しかしながら、日本においても時系列で観察を行うと、M字カーブの底の位置の上昇と底にあたる年齢の高齢化が観察される。晩婚・非婚化の進行や共働きの増加などが理由として挙げられるだろう。特に25-29歳における労働力率の増加（1980年の49.2%から2004年の74.0%）は著しい。また35歳以上64歳までの労働力率も時系列でみて一般的に上昇している。